

タイトル	合奏・大型絵本表現「はらぺこあおむしー下関バージョンー」(合奏について)
作成者(著者)	吉原達也・伊藤清之
作成者(ヨミ)	ヨシハラ, タツヤ・イトウ, キョユキ
出版社・団体	下関短期大学保育学科
出版社・団体(ヨミ)	シモノセキタンキダイガクホイクガッカ
Nii資料タイプ(区分)	研究報告書(教育実践記録等)
ISSN	—
掲載誌名	第30回 下関短期大学保育学科 創作発表会研究発表要旨集
巻・号	—
開始ページ	14
終了ページ	15
発行日	2017/12/9

下関短期大学
〒750-8508 山口県下関市桜山町1-1

Copyright©2017 Shimonoseki Junior College All rights Reserved.

合奏・大型絵本表現「はらぺこあおむしー下関バージョンー」（合奏について）

下関短期大学保育学科（担当教員：吉原達也・伊藤清之）

音楽ゼミナール 2年 稲田実歩、倉員美恵、佐藤夏稀、杉原ちひろ、野村采加、養田明花、山内颯大、吉田愛花

1年 大槻美和、筒井空弘

中・四国保育学生研究大会参加学生 2年 永島実夏、荒木古都乃、柴村美帆、前村泉里

1 研究の目的

本ゼミナールでは、感性豊かで自立的な保育者としての技術を習得するために、合奏の構成、奏法の取得、表現を通して、合奏の指導法を学び、音楽能力、コミュニケーション能力、意欲を高めることを目的としている。

今年度は定番の絵本「はらぺこあおむし」（エリック・カール原作）をもとにした絵本うた（もりひさし訳詞、新沢としひこ作曲）の合奏を題材に選び、発声・演奏の基本を学び、なおかつ保育現場での活用を意識しながら取り組んだ。また、創作楽器として、竹楽器の制作を試みた。

2 研究の方法

絵本「はらぺこあおむし」の鑑賞後、保育現場での演奏を前提として、楽器の選定・編曲をした。使用楽器：鍵盤リコーダー、鍵盤ハーモニカ、トイピアノ、アコーディオン、電子キーボード、ウクレレ、ギター、クラベス、ボンゴ、ウィンドチャイム、バスクロンプット（竹楽器）

3 研究の内容

各自が演奏する楽器の割り振りをし、奏法を試行錯誤しながら身につけた。合奏練習では場面によるテンポ、表現を工夫しながら何度も反復練習し、各パートの呼吸を合わせることを目標とした。演奏しながら歌唱する場面もあるため、個人練習も重ねた。

低音パートの演奏に適した楽器がなかったため、竹楽器を制作し利用することとし、材料は昨年度の音楽ゼミの学生により予め採取していたため、それを使用した（写真1）。全員で竹の選定をし、そのままの状態では材料として使用できないので、カセットコンロの火で炙り、浮き上がった油を拭き取る「油

抜き」（写真2）、専用の道具により節を突き割り空洞にする「節抜き」（写真3）、各音の音程に合わせた長さで切断し微調整をしながら調律をし（写真4）、組み立ての作業を経て、バスクロンプットというベトナムの民族楽器をモデルとした竹楽器を制作することが出来た。（写真5）



（写真1）竹材の採取



（写真2）油抜き



(写真3) 節抜き



(写真4) 調律



(写真5) バスクロンプット

4 研究の結果と考察

生演奏と歌唱による絵本読みに取り組んで来たが、これまでにあまり触れることのない楽器の演奏については時間がかかった。鍵盤リコーダーやトイピアノなどは、今現在、合奏で用いられることは少ないが、可愛らしい音色は子どもたちに親しまれ、音楽表現の幅が広がるものと考えられる。また、今回は竹を素材とする創作楽器を用い、手作り楽器の良さや可能性を感じることが出来た。今後は身近な材料による様々な手作り楽器の制作、保育現場での活用に取り組みたい。

当初は歌唱パートを場面ごとに分け、それぞれがソロで歌う予定であったが、なかなか声量が出ないため、可能な者は補助をするように変更をした。しかし楽器演奏しながらの歌唱は難しく、当日の発表までの練習でどこまで仕上げられるかが課題である。また、今回は中・四国保育学生研究大会で発表をした大型絵本と縫いぐるみとともにコラボレーションという形で発表を行う。



【参考文献・楽譜】

- 1) エリック・カール作、もりひさし訳
「はらぺこあおむし」偕成社、1976年
- 2) 「いっしょに歌おう！エリック・カール絵本うたソングブック」株式会社コンセル、2007年